

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| ① 国語A | 16人 | 国語B | 16人 |
| ② 算数A | 16人 | 算数B | 16人 |
| ③ 理科 | 16人 | | |

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

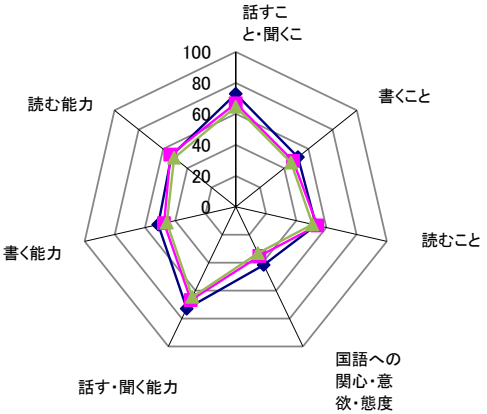
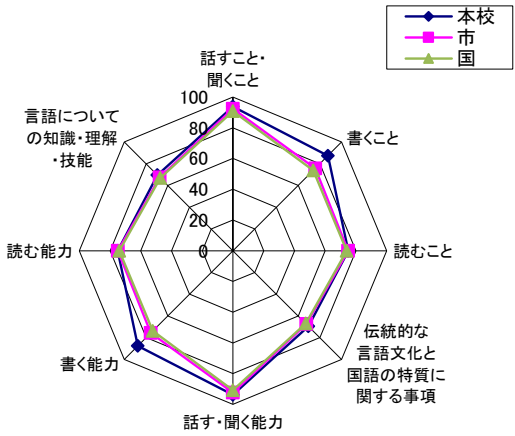
★本年度の国、市と本校の状況

【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	93.8	92.4	90.8
	書くこと	87.5	75.7	73.8
	読むこと	75.0	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.5	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	93.8	92.4	90.8
	書く能力	87.5	75.7	73.8
	読む能力	75.0	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	69.5	67.5	67.0

【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.9	66.8	64.6
	書くこと	51.3	47.4	45.6
	読むこと	53.1	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	41.7	35.2	33.2
	話す・聞く能力	72.9	66.8	64.6
	書く能力	51.3	47.4	45.6
	読む能力	53.1	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

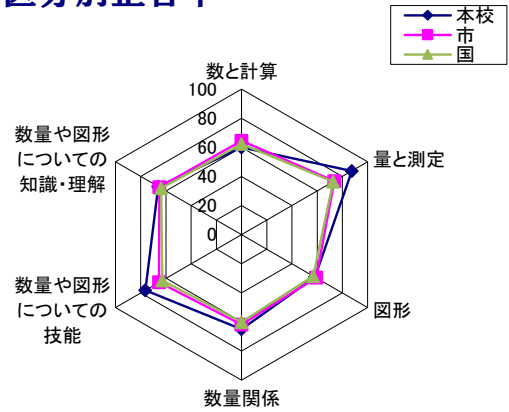
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、国語Aが93.8%、国語Bは72.9%と県・全国平均を上回っている。 ○国語Bの「【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する」設問では、県・全国平均を大きく上回った。 ●国語Bの「【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する」設問では、県・全国平均をやや下回った。	会話科や総合的な学習の時間、学級活動・委員会活動など他教科他領域と関連させながら、話し合い活動の経験を今後も積み重ねていくようにする。また、話し合い活動の際には、司会を輪番制で行うなど、一人一人が司会の体験を積めるように設定することで司会の役割や話し合いの進行の仕方について習得させていきたい。
書くこと	平均正答率は、国語Aが87.5%、国語Bは51.3%と県・全国平均を上回っている。 ○国語Aの「物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する」設問では、県・全国平均を大きく上回った。 ●国語Bの「【おすすめする文章】の空欄に、むし歯を防ぐ効果について【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く」設問では、県・全国平均を上回ったものの正答率が18.8%と低かった。	各教科で自分の考えを書く活動を充実させてきているが、今後も他教科他領域とも関連付けながら言語活動を行わせたり、複数の情報を分析させ、それをもとに記述させるなどの指導を充実させていく。また、作文や日記、手紙など、書く活動を行う際に、一定の条件を設けてそれに合うような文章を書かせる活動を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は、国語Aが75.0%、国語Bは53.1%と県・全国平均を上回っている。 ○国語Aの「『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する」設問では、県・全国平均を上回った。 ●国語Aの「【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する」設問では、県・全国平均を下回った。	読書好きな児童が多く、物語の読解はよくできているので、今後も読書活動を奨励すると共に読むジャンルの幅も広がるよう働きかけていく。また、長い文章を読んで考えたり、複数の資料から自分に必要な情報を選び出したりするような活動を増やしていく。さらに、説明文や解説文、コラムなど様々なスタイルの資料を意図的に提供して様々な表現の工夫に着目させるきかいをもうけていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、69.5%と平均を上回っている。 ○国語Aの「【話を聞いている様子の一部】のアイに入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する」設問では、県・全国平均を大きく上回った。 ●国語Aの「文の中で漢字を使う(しょう毒)(せつ極的)」の設問では、県・全国平均を大きく下回った。	漢字の読み書きについては、今後も小テストなどを通して繰り返し練習させる。また、全校体制で行っている漢字書き取りチャンピオン大会にも目標をもって挑めるよう指導の充実を図る。さらに、習得した漢字を日常の作文で正しく使うことができるようにノートや日記、作文の指導を充実させていく。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

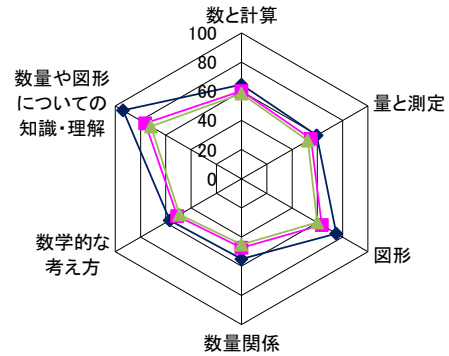
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	60.0	64.5	62.3
	量と測定	87.5	73.6	72.7
	図形	58.3	59.1	56.9
	数量関係	65.0	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	76.3	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	66.0	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	64.6	60.2	58.4
	量と測定	59.4	55.0	52.4
	図形	75.0	63.5	59.9
	数量関係	55.0	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	56.9	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	93.8	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

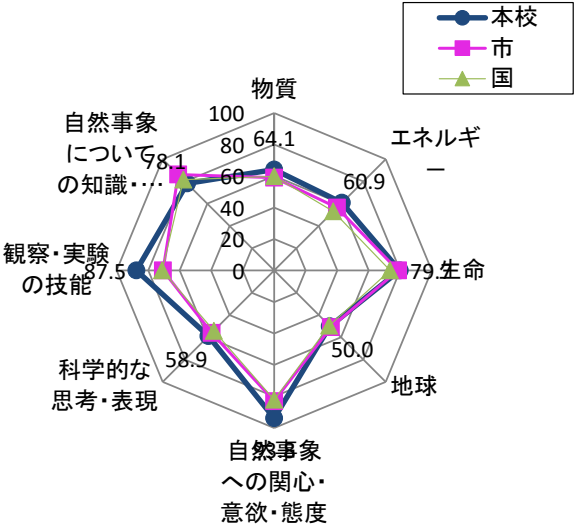
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、算数Aが60.0%で県・全国平均をやや下回った。算数Bは64.6%で県・全国平均をやや上回った。 ○算数Aの「針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さがそれぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ」設問では、県・全国平均を大きく上回った。 ●算数Aの「針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く」設問では、県・全国平均を大きく下回った。	朝の学習等を利用して基礎的な計算の定着に向けた練習を行うとともに、全校をあげて行う計算チャンピオン大会に向けても一人一人の目標を明確にさせて努力させるようにする。また、発展的な問題や記述を要する問題では無回答率が高くなり回答する意欲が低下していることから、複雑な問題でも解決する力を身に付けられるように、児童の実態に応じて習熟度別学習なども取り入れて個に応じた指導の充実を図りたい。
量と測定	平均正答率は、算数Aが87.5%、算数Bは59.4%で、ともに県・全国平均を上回った。 ○算数Aの「面積がそろっている⑦と⑧の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ」設問と「角の大きさが何度であるかを選ぶ」設問は正答率が100%だった。 ●算数Bの「全体で使える時間の中で、『ルールの説明』に使える時間は何分かを書く」設問では、県・全国平均をやや下回った。	基礎的な問題の正答率が高いことから、今後も補充プリントを活用して習熟を図っていくようにする。また、答えの理由を式や文章で根拠を明確にして記述する問題では、無回答率が高くなっていることから、日々の授業の中でも答えを出すだけでなくとどまらず、どのようにして答えを出したかの根拠を文章化する機会を多く取っていく。
図形	平均正答率は、算数Aが58.3%で県・全国平均と同等だった。算数Bは75.0%で県・全国平均を上回った。 ○算数Aの「円周率を求める式として正しいものを選ぶ」設問では、県・全国平均を上回った。 ○算数Bの「合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見い出すことができる図形として、正しいものを選ぶ」設問では、県・全国平均を大きく上回った。	基礎的な問題の正答率が高いことから、今後も補充プリントを活用して習熟を図っていくようにする。また、発展的な問題や記述を要する問題においては、県・全国平均を上回っているものの、選択問題や数字で回答する問題よりも正答率が低くなっている。このことから、日々の授業の中で式と文章の両方を使って説明する機会を多く設けていく。
数量関係	平均正答率は、算数Aが65.0%、算数Bは55.0%で、ともに県・全国平均を上回っている。 ○算数Aの「200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ」設問では、県・全国平均を大きく上回った。 ●算数Bの「メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く」設問では、正答率は県・全国平均を上回ったが、無答率も大きく上回った。	基礎的な問題では正答率が高いことから、今後も補充プリントを活用して習熟を図っていくようにする。また、グラフを読み取る力や文章の読解力が必要な問題では正答率が下がるとともに、記述式で答える問題では無回答率が高くなる傾向があることから、様々な出題形式の問題に取り組む機会を多くとり、文章問題に対する抵抗感をなくすとともに、出題の条件に合った形で文章で答える経験を多く積ませていく。さらに、児童の実態に応じて習熟度別学習なども取り入れて個に応じた指導の充実を図っていく。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	64.1	59.0	59.8
	エネルギー	60.9	56.4	53.1
	生命	79.7	78.6	73.6
	地球	50.0	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	93.8	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	58.9	56.1	54.1
	観察・実験の技能	87.5	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	78.1	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	平均正答率は、64.1%と県・全国平均を上回っている。 ○「ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ」設問では、県・全国平均を大きく上回った。 ●「海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ」設問では、県平均を下回った。	実験を行う際に、方法を検討したり結果の予想をしたりする時間を十分に確保していく。また、得られた結果から分かったことや予想に反した結果が出た際の考察のしかたについても適宜指導し、科学的なものの見方や考え方を養えるようにしていく。
エネルギー	平均正答率は、60.9%と県・全国平均を上回っている。 ○すべての設問において、県平均・全国平均を大きく上回った。 ●「目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中ででの光電池の適切な位置や向きを選ぶ」地球領域との複合的な設問では、県・全国平均を大きく下回った。	学習で得られた知識を日常生活でどのように活用できるかについても考えたり議論したりする機会を設け、他の学習と関連付けながら生活の中で利用されているということに気付かせていく。また、知識を活用するために、基礎的事項の更なる定着を図っていく。
生命	平均正答率は、79.7%と県・全国平均をやや上回っている。 ○「鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ」設問では、県・全国平均を上回った。 ●「人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ」設問では、県・全国平均を下回った。	人の腕が曲がる仕組みは理解できているが、その仕組みを模型に適用できなかったために正答できなかった児童が多く見受けられた。学んだことを一般化し、他の事物にも適用できないか考察する機会を学習の流れの中に組み込む機会を設けていく。実験・観察を通して周囲の動植物にさらに興味をもてるようはたらきかけていく。
地球	平均正答率は、50.0%と県・全国平均とほぼ同じである。 ○「上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ」設問では、県・全国平均を大きく上回った。 ●「流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ」設問では、県・全国平均を大きく下回った。	授業において、条件を整理して実験させていく。多くの条件がある場合は、表にして整理したり、関連が深いものどうしをよく比べたりして検討する機会をもたせる。また、基礎的事項での誤答が目立ったため、教科書の語句を単元の節目毎に確認し、基礎基本の定着を図っていく。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがありますか」の質問に対して87.5%の児童が肯定的回答、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか」の質問に対して100%の児童が肯定的回答であった。自己肯定感が高い傾向にある。今後も道徳科等を中心として、児童を認め励ます指導をしていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、100%の児童が肯定的回答である。今後もいじめゼロ強調月間やあいさつ運動週間などを通して、意識を高めていきたい。

○「自分で計画を立てて勉強している」の質問に対して、肯定的回答が75%と平均を上回っている。小中一貫教育と関連させながら、自主学習を推進している成果と考えられる。

○「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」の質問に対して、68.8%と平均を大きく上回り、「週末に何をして過ごすことが多いですか」の質問には100%の児童が「家族と過ごしている」と回答した。このことから家族との関わりが深いことが分かる。

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の質問では肯定的回答が87.5%、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問では肯定的回答が75.1%と、国・県の平均を大きく上回っている。学校の特色として地域との連携を大切にしていることが、平均値が高い理由と考えられる。今後も児童が地域や社会に関心が持てるよう指導していきたい。

○「算数の勉強は大切だと思いますか」「理科の勉強は大切だと思いますか」の質問では肯定的回答がいずれも100%であった。今後も学習形態や指導方法を工夫し、高い意欲を持って児童が学習に取り組めるよう指導していきたい。

●「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」の質問では、「当てはまる」と回答した児童が25%と、国・県の平均を下回った。理科の学習において「不思議だな」と児童が思うことで、自分から意欲的に観察や実験に取り組み、学びに向かう力を高められるのではないかと考える。今後は児童が少しでも「なぜ、どうして」と思うような授業づくりを進めていきたい。

●「調査問題の解答時間は十分でしたか」の質問では、国語B・算数Bのどちらも「やや足りなかった」「全く足りなかった」と回答した児童が多い。記述への苦手意識、書くことに慣れていない傾向があるように思われる。今後は、様々な教科での学習を通して、自分の考えを書く活動を増やしていきたい。

宇都宮市立城山西小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
聴く指導	相手理解を意識した「聴く」態度を醸成する。言語活動の指導に力を入れ、ペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れることで、自分の考えをまとめ表現する機会をできる限り多く設定するようにして、考えながら聴くことを意識させる。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができると思いますか」に81%の児童が肯定的回答をしている。相手を意識したやり取りをする中で、聴く姿勢が身に付いていると考えられる。
めあての提示	学びのゴール（目標）を明確に示し、だれも見通しをもった学びができるよう、めあての提示を工夫していく。一人一人がゴールをイメージした主体的な学びになるようコーディネートしていく。	授業の目標（ねらい）を示すことや授業の終わりに振り返る活動を設けることについては、板書カードを全学年共通で使用し、全職員で共通理解を図り取り組んできた。授業の目標（めあて）の提示とともに、それに対する振り返りを行ない、めあてがどれだけ達成できたか考える機会を設けたい。
家庭学習の充実	地域学校園で「宿題プラス1」を合言葉とした取組を実施している。授業の中で問題解決力を高める指導（自分で類題やさらなる調べができる、間違いを自分で確かめて直せる等）をすることで、自主体的な学びができるようにしていく。	「家で、学校の宿題をしている」に肯定的回答をした児童が100%で、よく身に付いている。しかし、自ら取り組む態度に関わる「家で、予習・復習やテスト勉強をしていますか」は、68%程度である。学校の授業の復習・予習、テストで間違えた問題についての学習などに目を向けさせた家庭学習に取り組めるようにしたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎的事項の設問において、おおむね県・全国の平均正答率を上回っていた。しかし、基礎的事項で県・全国平均を下回るものも数か所見られた。そのため、基礎・基本の学力の定着に一層力を入れ、全校体制で取り組む必要がある。	児童の学力を定着させるため、わかる授業の実現に向けた取り組みの充実。	誰もが分かる授業の取り組みをさらに強化するため、次の2点の取り組みを徹底していく。 ①めあての提示と、板書に使う色の全校統一（めあて→黄枠、まとめ・重要事項→赤枠・赤字、振り返り→白枠）。 ②授業ごと、もしくは単元ごとの振り返りの確保と充実。